

信州昆虫資料館報

No.10

2012.4



2012年 スケジュール

長く厳しい冬も過ぎていきます。皆さまお元気ですか？
本年もよろしくお願ひします。

2月 「上田創造館子供科学館まつり」

当館収蔵の山田靖昆虫画、ファールブルおじさん(佐久市)寄贈の標本、当館蝶の写真グループ作品展示。成沢さん(上田市)の蝶の生態動画放映、ファールブルおじさんのお話会などで参加

3. 31 (土) 小諸市御牧ヶ原「読書の森」で、当館代表小川原辰雄先生「ハチのお話会」がありました。

4. 21 (土) 10時 オープン 「ギリシャ神話や文学の昆虫たち」展
開催～5. 31 ヘルマン・ヘッセ展、どくとるマンボウ展、ことわざに出てくる虫たち展でおなじみの新部公亮氏の制作。

4. 29 (土) 13時～「ギリシャ神話にちなんだ星のお話会など」
創造館の渡辺文雄先生と共に天文や虫の世界に漂いましょう。

上田創造館協力

6. 2 (土) 16時「春の虫たちに逢おう」日本鱗翅学会信越支部主催
日本昆虫協会長野支部・当館他共催協力

館内外での勉強会のあと、ライトトラップによる夜間観察や採集調査。学会で作った腕章を巻いていただきます。子供さんたちにとって、とっても楽しい体験になりますよ。

7. 10 (日) 13時～恒例講演

館代表小川原辰雄先生の「ハチに刺されないために」

年に一度先生のお話を聴くと、なぜかハチに刺されない。ホント。

8. 11, 12 (土・日) 18時～ 当館恒例 「夜間昆虫観察会」

ライトトラップに集まる夏の虫と人間の饗宴。時の経つのを忘れませ。自前でイス・テーブル飲み物などご持参ください。

9～11月第4週の(日)十観山自然観察・談話会・コンサートなど。毎月何かしらを開催しています。企画ご希望の方はご一報ください。

詳細は近くなりましたらお問い合わせを。HPもご覧ください。

★ 当館の行事すべてに青木村教育委員会・公民館の後援を頂いております。

★ 本年より入館料が大人300円になります。中学生以下は無料です。

★ 慢性的にスタッフ不足につき、ボランティアを募集中しています。短い時間でも助っ人になってくださる方、いつでもお越しください。

初めての信州昆虫資料館と連携事業を開催して

上田創造館 渡辺文雄（上田市）

ひとつの星～名和 靖～

「私の心のある処に、たくさんの星ぼしが輝いている。その内のひとつのエリアに明治生まれの昆虫少年、名和 靖・佐々木忠次郎・前澤淵月（旧伊那郡）等の名が連なる。」～これは信州昆虫資料館報第1号(2006年)2ページ、野原副館長さんの書き出しである。勿論私がこの館報を拝見したのは、ホームページに掲載されてからの事ではあるが、私自身が、他の方々よりも若干星に興味関心を持つ一人として、妙に記憶に残る文章だった。そんな事を忘れ掛けていた2011年末、年明けに「子ども科学館まつり」みたいな事をやりたいね！という話が職場で持ち上がり、その内容を検討する段階で、今迄の創造館事業の流れから天文宇宙分野・昆虫・子ども達の絵画造形の世界を上手く組立てられないか？ということになった。

この検討段階では昆虫写真でお世話になった写真家の名前なども浮上したが、私は開館間もないころ子どもを連れて訪れた事のある、地元「信州昆虫資料館」の名前がふと浮かんできた。

そこで、青木村の「信州昆虫資料館」に相談したらもしかしたら何かできるかもしれないと…何の根拠もなくそう思った。ところが誰も昆虫資料館の実態を知っている者がいない。「一度昆虫館へ行って話してみよう！」となり、年末近くに、私にとっては3回目の昆虫資料館への山道を登る事になった。

空は厚く雲が垂れ込め、粉雪まじりの風が強い日だったが、田沢温泉から右手に進路をとり山道を登っていくと、遠く上田、塩田の水田地帯が眼下に広がる眺望の良い「のぞき」に出、そこからじきに館に着く。幸いな事に館代表の小川原先生もお見えになっていて、挨拶もそこそこに創造館の催しにお力をお借りしたい旨をお話しすると、非常に快くお引き受け頂いた。

「後はこちらの担当者と相談してください」というお話しで、野原さんを紹介された。野原さんに館内をご案内頂いて、開館した頃とは少しレイアウトが変わったり、展示スペースが増えたりはしていたが、懐かしく拝見した。

一通り館内を拝見し、上田創造館を簡単に紹介し、本題である今回の催しの構想をお話しすると、野原さんも非常に興味を持ってくださったように感じた。

創造館として昆虫を取り上げた催しは殆ど経験がなく、どんな形態で行うのかについても、野原さんの今迄のノウハウにおんぶするところが大きかった。冬季は閉館になるので、展示品を創造館へ下ろす事も大丈夫だと言って頂き、こちらとしては大変有難い季節であったと思う。

そして私達にとって初めての「信州昆虫資料館」との提携事業「子ども科学館まつり」が2月4日～2月12日の間で行われたのだった。今迄の経験から、虫、昆虫等の言葉が付くと、児童生徒の観覧者が非常に多くなる事はある程度想像していたが、実際に「虫って面白い…W/S」では予想以上の子ども達で賑わった。また期間中殆ど毎日会場にお出で頂いた昆虫資料館のボランティアの皆さん、佐久のフェアブルおじさんこと井出さんや野原さん、皆さんのお力添えのお陰で、期間中沢山の子ども達に蝶や、昆虫の素晴らしい展示資料を見て頂く事ができた。

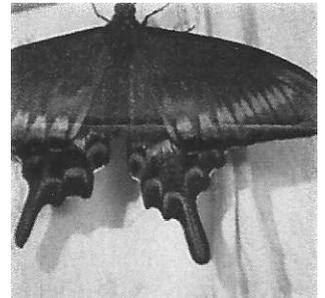
正直なところ、創造館の職員も大変貴重な資料を豊富に擁して居られる「信州昆虫資料館」を殆ど知らずにいたのですが、今回を良い契機として地元にある素晴らしい施設と連携した事業の展開を、今後もお願いできたら楽しいことです。

虫好きっ子の親として

深沢 順子（青木村）

この春中学生になる次男は、大の虫好きです。幼い頃から、小さな背中を丸めては、庭先の石をひっくり返して虫を観察していました。虫探しの途中、ミイデラゴミムシの毒ガス噴射に遭い、指先を真っ黒にしていたり、蜂に刺されるなど、何度か痛い思いを経験しながら、それでも虫への熱い思いは継続し、現在に至っています。そんな中、信州昆虫資料館様には大変お世話になっており、夏に行なわれる「夜のライトトラップ」は特に次男のお気に入りです。毎年楽しみに参加させて頂いております。

先日、上田創造館に、佐久パラダのフェアブルおじさんが来てくださるという事をお聞きし、次男と長女と一緒に参加させて頂きました。さすが、フェアブルおじさんですね！子供たちの素朴な質問にも分かり易くお答えいただき、またひとつ勉強になりました。帰りには、ミヤマカラスアゲハのさなぎと、オオムラサキの幼虫をお土産に頂きました。教えていただいたように、オオムラサキの幼虫は、冬眠と同じ状態を保つため、冷蔵庫に入れておきました。（びっくりするので、長男



ミヤマカラスアゲハ
「クロちゃん」

には内緒です。）ミヤマカラスアゲハのさなぎは、ケースに入れ、リビングの見える所に置いておいたところ、3月1日に羽化して、「蝶」になってしまいました！季節外れの羽化は初めての経験だったので、慌てて佐久パラダに電話して、どうしたら良いか尋ねましたところ、「ポカリスウェットをティッシュに湿らせて、蝶の口のストローを、針で伸ばして吸わせてあげると良い」と教えて頂き、言われた通りにやってみました。すると、本当に飲んでくれて、とても嬉しかったです。お腹がいっぱいになると、部屋の中を飛び回り、まるで我が家だけひと足早く春が来たようでした。「タロちゃん」と名付けられたその蝶は、それから2週間家族の一員でした。今思うと、本物の花の蜜を吸わせてあげたかったです。

虫好き次男の将来の夢は、「ハチ学者」です。信州昆虫資料館の小川原館長さんの作品に触れたり、次男自身も小学校最後の夏休みの自由研究で「ハチの観察」をしたことにより、更に興味が湧いたようです。生涯に渡り、大好きな虫たちと関わっていかれたら、どんなに幸せかと思えます。そんな次男の成長を見守りながら、私も一緒に楽しんでいきたいと思っています。信州昆虫資料館の皆様には、これからもお世話になりますがよろしくお願ひします。

★ 深沢さんご家族様と同年齢のお子様のおられるご家族様が、東北信から毎年お見えになり、いい仲間になっていきます。素敵なことですね。

展示会会場準備作業に参加して

向川 靖彦（上田市）

上田創造館子ども科学館を知ろう！見よう！体験しよう！

上田創造館の「子ども科学館まつり」開催にあたって、信州昆虫資料館に出展依頼が入り、私を含めたボランティア数人と会場準備のお手伝いをするようになった。

信州昆虫資料館の野原副館長が指揮をとり、上田創造館の学芸員数人が手際良く会場整備作業を進める。会場は広く、ガラス戸の入った左一面の壁スペースもあり、展示品で埋め切れるものかどうか心配になる。野原さんは「展示資料は充分過ぎるくらいありますよ」と自信たっぷりだ。展示品が運び込まれると、なるほど、彼女の自信を裏付けるように、その点数は相当量に及ぶ。山口県岩国市の昆虫画家、故山田靖画伯の昆虫イラスト多数を始め、佐久パラダ「フェアブルおじさん」からの寄贈標本が、ドイツ箱で20箱以上。それに、信州昆虫資料館蔵の標本や、私の写真仲間からの寄贈品「蝶の生態写真」まで準備されていた。地元の蝶撮影仲間のNさんは、蝶の生態動画映像をDVDにまとめ、提供。プロジェクター用の大型スクリーンに、この映像を映し出せば、雰囲気も盛り上がることだろう。

何といても、目玉は2/12（日）のフェアブルおじさんの登場だ。講演名は、佐久のフェアブルおじさんがやってくる『虫っておもしろい』だ。30名の児童参加者に加え、立ち席の父兄も。オオムラサキの展翅、ヘラクレスオオカブトの展足などが行われ、オオムラサキの越冬幼虫やミヤマカラスアゲハの蛹は、手にとっての観察だ。室内の暖かさで、オオムラサキの幼虫が動きだした。子供たちは、歓声をあげて興味津々の観察となった。フェアブルおじさんの会場案内が始まると、児童と父兄、同好の人達を取り囲み、盛んな質問が飛び交う。フェアブルおじさん曰く「今のご時世では、『虫を殺すことは良くないこと』と教育されているようだが、それは違う。身の周りにはいる虫を観察し、捕まえて標本を作る。これは自然科学を学ぶ基本で、虫がどんな動植物の害虫なのかが学びとれるんだ。虫って、おもしろいよ！」と。

最終日、入口で記帳された人々を累計すると800人を超え、創造館学芸員の話では、稀にみる大盛況とのこと。どうやら成功裏に終了したようだ。

このような規模の展示会会場の準備をお手伝いしたのは、初めてのことだが、その大変さとやりがいを体験することができた。又の機会があれば、是非参加したい。声をかけて下さった信州昆虫資料館の野原さんに、改めて感謝の意を伝えよう。



準備万端の会場



沢山の嬉しい質問が

編集後記

開館9年目、行きつ戻りつの春。4月に入ってようやく山道の雪も消えました。

世界中が凍りつく想いで過ごした震災や原発の悪夢から1年の後、状況はさらに緊迫感を増すばかり。廃棄も分解もできぬ原発の汚染物質の行方は、コンクリートに固められて地中や地表に詰まれ、剥いだ地表は袋に入れて積み上げられたまま。手付かずの状態のものもあり、海に大気に流れたものは取り返しもつきません。地球の周りに煌く宇宙ゴミの輪も放置です。

頭上はるか彼方に瞬く星々と、地上を蠢く蟲たちはいっさい言葉を発することもなく、人間の所業を見えています。今後の方針を打ち出す政府や大企業の皆さんも、「散らかしたものはかたづけなさい！」と叱ってくれたお母さんを、憶い出していたきたいものです。私も9年目を向かえ、次々と目先に追われるばかりで、お世話になってきた沢山の方々への、ご挨拶も配慮もできず焦るばかりです。

ご無沙汰を重ねるばかりの皆さまに、この場をお借りして心よりお詫び申し上げますとともに、出来ることならどうかお許しくださり、ひょっこり遊びに来ていただけると幸いです。また当館は、都度都度のボランティアを頂いては乗越えている次第ですので、皆様の暖かいお力をお待ちしております。

なお、この2月に開催されました上田創造館の「こども科学館まつり」に声を掛けてくださった創造館の皆さま、快く応じてくださったファールおじさん、3月に代表小川原ドクターを招いてくださった小諸の「読書の森」の皆さま、心より感謝申し上げます。ボランティアの皆さま、寄稿くださった皆さまありがとうございました。

春ですね。今年も村の岩下さんから羽化したヒメギフチョウが届きました。

4月21日オープンです。おなじみ新部さんの展覧会を皮切りに、29日には創造館渡辺さんのお話し会です。山田靖昆虫画展示室の作品はすべて入れ替えますので、どうぞお楽しみに。6月2日の夜間昆虫調査採集会にも、たくさんの子供たちが来てくださることをお待ちしております。

(2012.4.5 野原 記)

〒386-1601 青木村田沢 1876-6 信州昆虫資料館

Tel 0268-37-3988 Fax 37-3964 E-Mail kontyu-s@ypost.plala.or.jp